

【保護者アンケート】

1 目的

タブレット端末の活用における、保護者の意識調査をもとに、今後のタブレット端末の利活用等についての参考にする。

2 調査概要

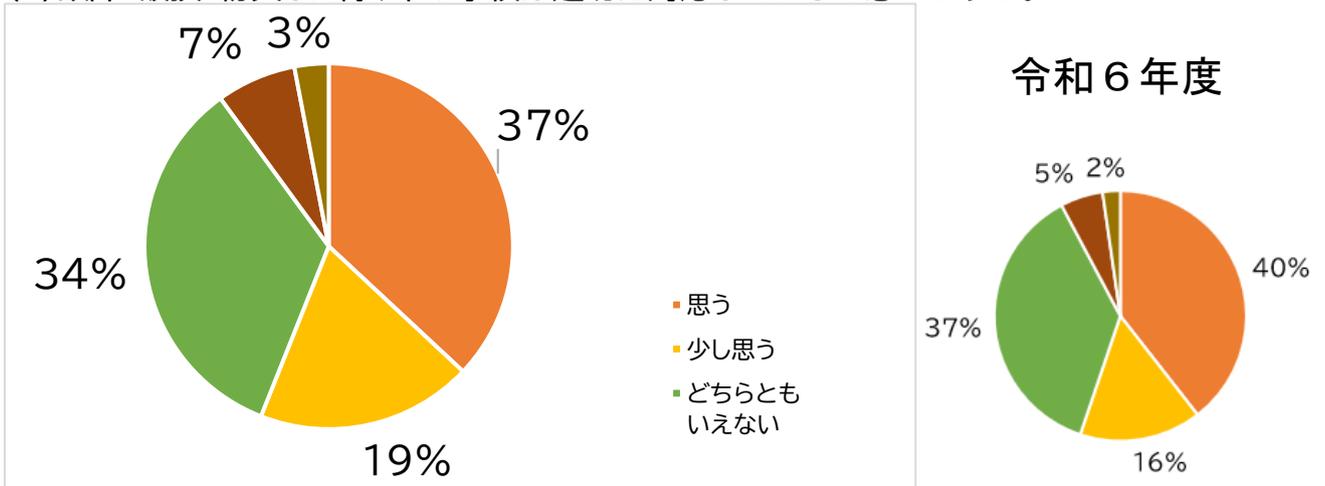
【実施期間】 令和7年10月20日(月)～令和7年11月7日(金)

【回答数】 ※回答は家庭数であるため、割合算出はしていません。

アンケート対象	回答数	市内児童生徒数
保護者(家庭数)	5,189人	12,629人

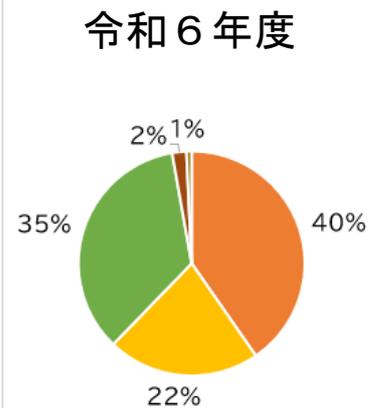
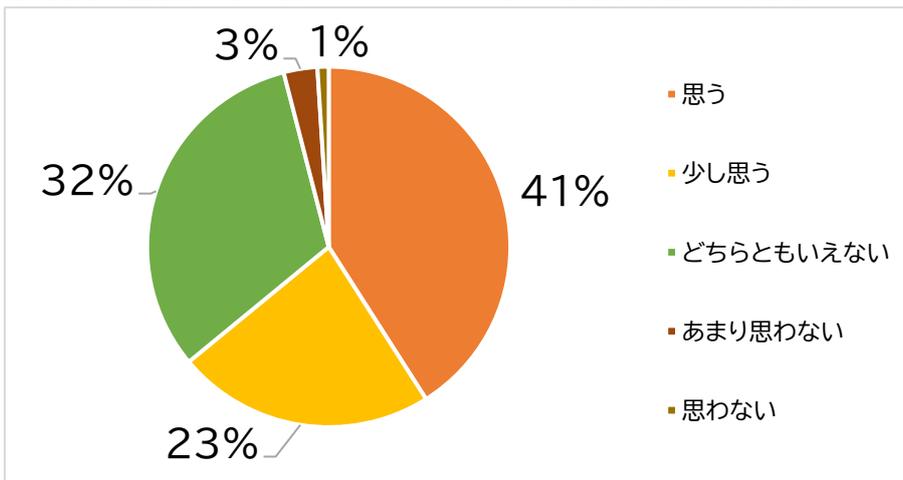
3 保護者の設問に対する回答

(1)故障・破損・紛失した際、市や学校は適切に対応していると思いますか。



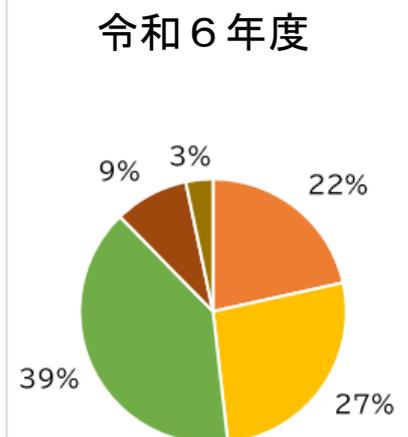
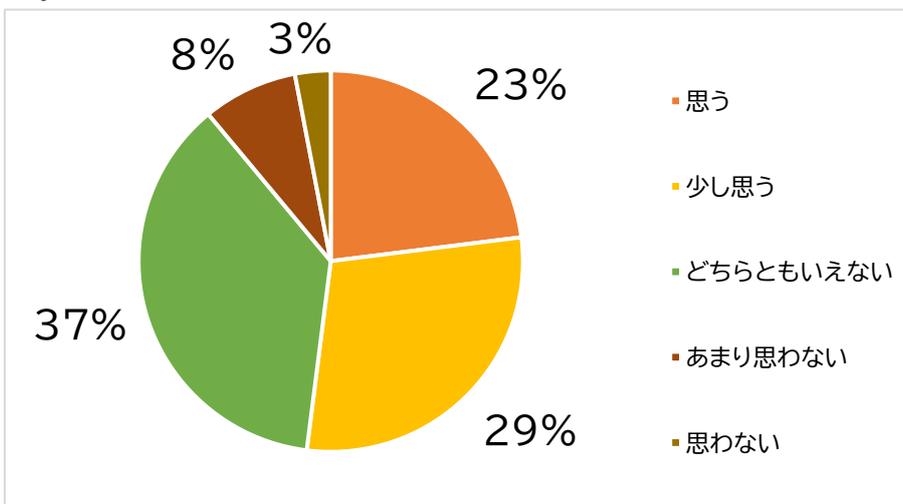
令和6年度は「思う」、「少し思う」の肯定群の割合が56%であった。令和7年度も56%と変化していない。「あまり思わない」「思わない」の否定群の割合は7%から10%へ上昇している。

(2) 個人情報の取り扱いについて、市や学校は適切に対応していると思いますか。



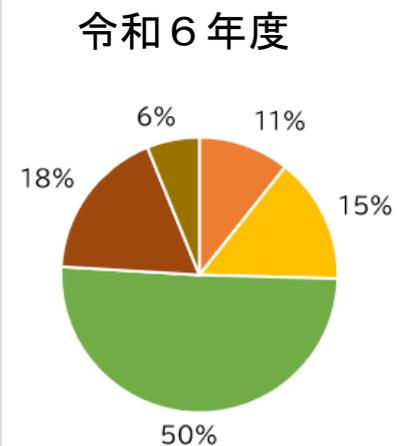
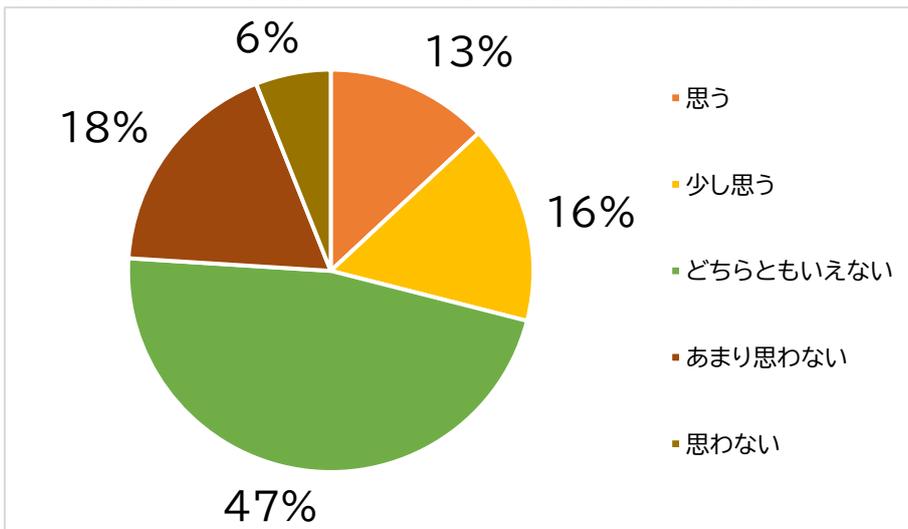
令和6年度は肯定群が 62%となっていたが、令和6年度は肯定群の割合が64%と上昇している。また、否定群の割合は 3%から 4%へやや上昇している。

(3) 子供たちをネットトラブル等から守るために、市や学校は適切に対応していると思いますか。



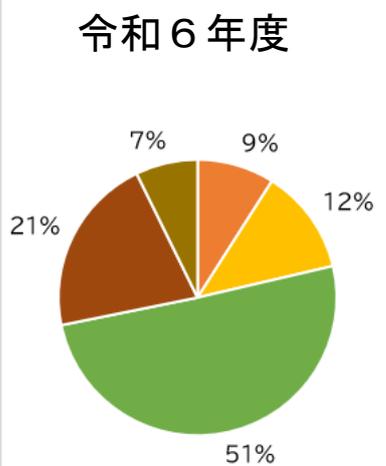
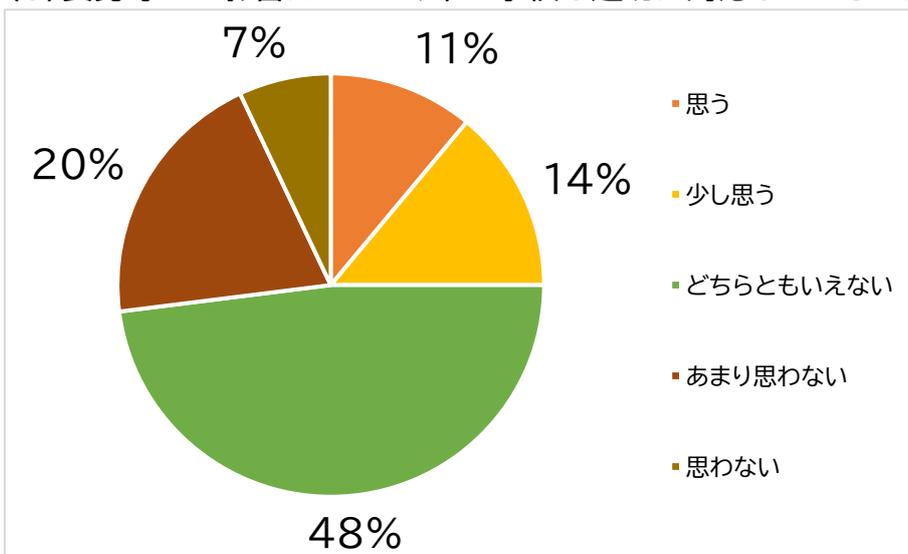
ネットトラブルの対応に関して肯定群の割合は、49%から 52%と上昇している。一方で、否定群は12%から11%へと減少しており、ネットトラブルに対する不安が減少していることを示唆した。

(4) 視力等への影響について、市や学校は適切に対応していると思いますか。



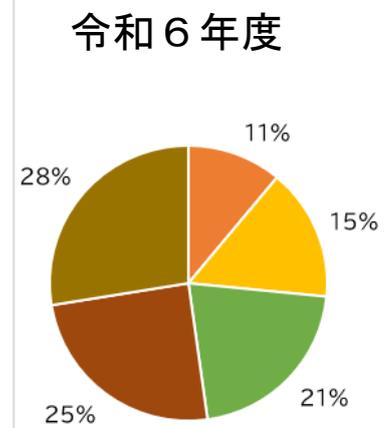
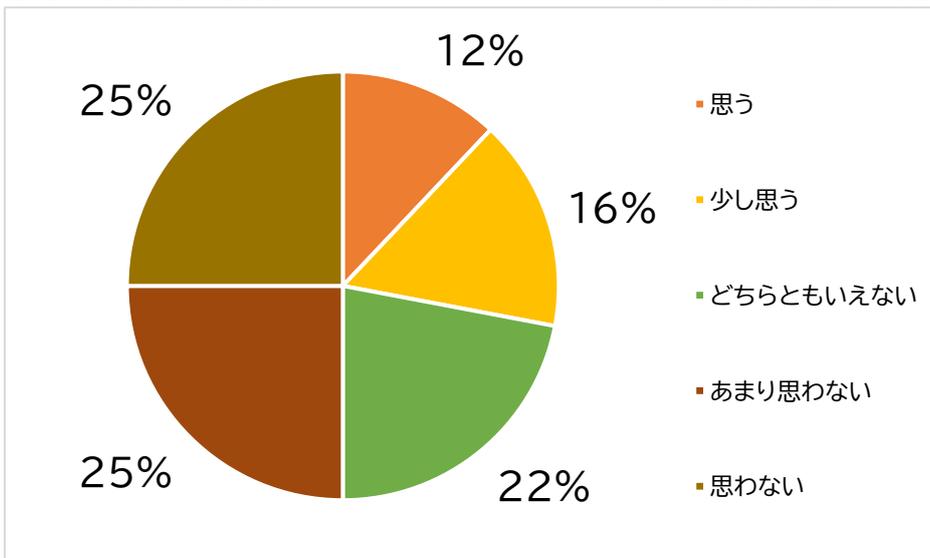
視力等への影響について肯定群を令和6年度と比較すると 26%から 29%と上昇し、否定群は 24%から変動はない。この設問は、「どちらともいえない」が例年多いことから、長期的な取組が必要と考えられる。

(5) 姿勢等への影響について、市や学校は適切に対応していると思いますか。



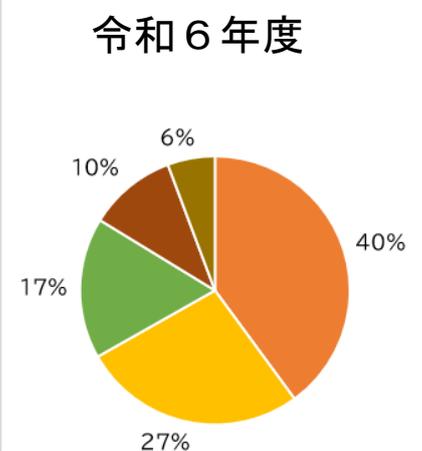
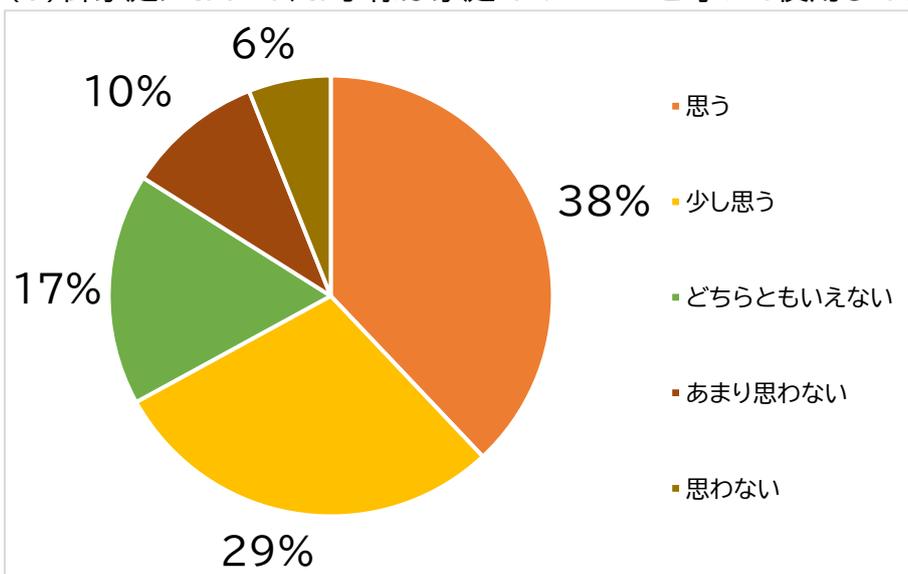
姿勢等への影響については、肯定群を令和6年度と比較すると 21%から 25%と上昇し、否定群は 28%から 27%と若干減少しており、姿勢に対しての手立てが少しずつ進んだことが示唆された。

(6) 登下校時に荷物が重くなることについて、市や学校は適切に対応していると思いますか。



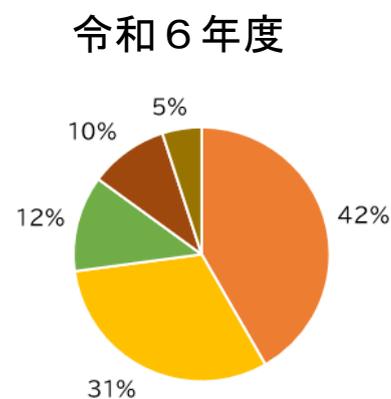
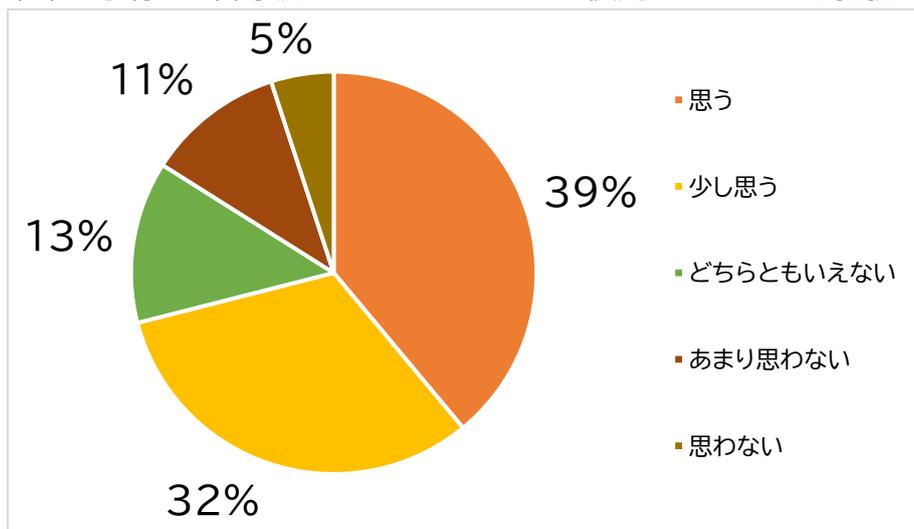
荷物の重さについて令和6年度と比較したとき、肯定群は26%から28%となり、否定群においては53%から50%へとやや減少しているが、他の設問に比べて依然として大きな割合を占めており、重さの負担軽減にさらに対応を求めていることが示唆される。

(7) 御家庭において、お子様は家庭でのルールを守って使用していると思いますか。



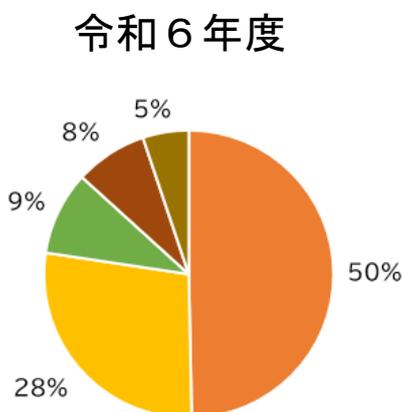
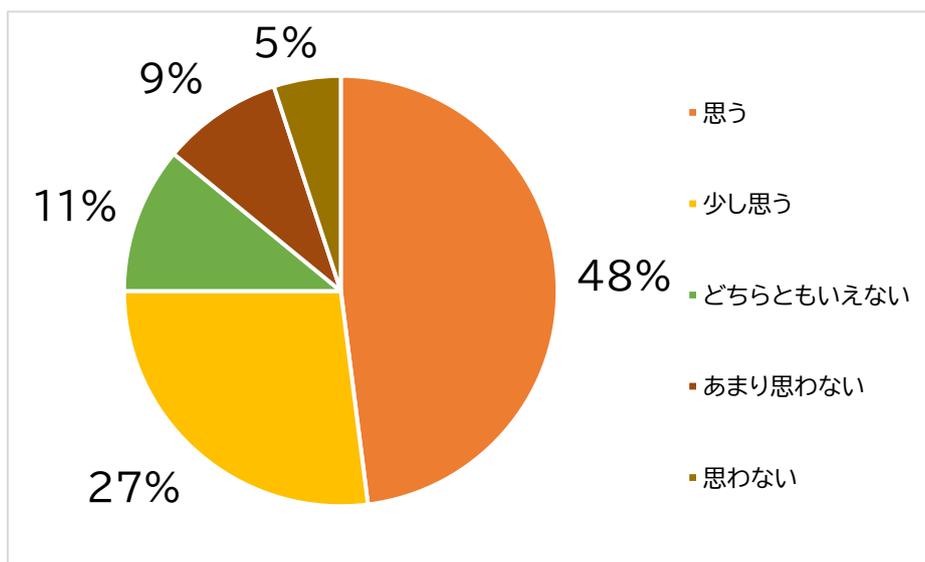
この質問において肯定群は令和6年度が67%で本年度も変動はない。また否定群は16%から変動はないことから、家庭でもルールの見直しが進んでいないことが示唆される。

(8)お子様が、御家庭でどのようなことに使用しているかを把握できていると思いますか。



どのようなことにタブレット端末を使用しているかについては、令和5年度6年度ともに肯定群が大きく、73%と71%となっている。否定群に関しては15%から16%とやや増加傾向が見られた。

(9)お子様が、御家庭でどれほどの時間使用しているかを把握できていると思いますか。



タブレット端末を使用している時間については、肯定群が78%から75%と若干減少した。また否定群も13%から14%に増加していることから、家庭における活用方法にあまり変化はないことが示唆された。

## 4 保護者の諮問に対する考察と対応策

### (1) 考察

#### ● 保護者の意見の変化と現状

##### ① 家庭内での対応状況

家庭におけるルール遵守率(肯定群 67%)や使用状況の把握率(肯定群 71%)は高い水準にあるが、前年度から大きな変動は見られず、家庭でのルールの見直しが進んでいないことが示唆される。

##### ② 市や学校の対応に対する評価

家庭でのルールや把握率は高い一方で、市や学校の対応に対する肯定的な評価はそれほど高くない。

##### ③ ネットトラブルへの不安の減少

ネットトラブルへの対応に関して、肯定群の割合は令和 6 年度の 49%から 52%に上昇し、否定群は 12%から 11%へ減少しており、不安が減少していることが示唆される。

##### ④ 個人情報の取り扱い

個人情報の取り扱いについて、肯定群の割合は令和 6 年度の 62%から 64%へと上昇している。

##### ⑤ 健康影響への評価

視力や姿勢等への影響に対する市の対応について、肯定群の割合はわずかに上昇(視力:26%→29%、姿勢:21%→25%)しており、手立てが少しずつ進んでいることが示唆される。しかし、視力については「どちらともいえない」が例年多く、長期的な取組が必要と考えられる。

##### ⑥ 故障・破損への対応

故障・破損・紛失時の市や学校の対応について、「あまり思わない」「思わない」の否定群の割合が令和 6 年度の 7%から令和 7 年度には 10%へ上昇している。

#### ● 保護者の懸念

##### ① 荷物の重さ

登下校時に荷物が重くなることについて、市や学校の対応に否定的な意見の割合が、令和 6 年度の 53%から令和 7 年度に 50%へとやや減少したものの、他の設問に比べて依然として大きな割合を占めている。これは、持ち帰り荷物のさらなる精選に取り組む必要があることを示唆している。

## (2)対応策

### ● 視力への影響に対する対策

- ① スクリーンタイムの管理:学校や家庭で1回の使用時間を制限し、適切な休憩時間(例:30分使用後に10分休憩)を設ける。
- ② 目の体操の推奨:20-20-20ルール(20分ごとに20フィート(約6m)離れた場所を20秒見る)を取り入れることを推奨する。

### ● 姿勢への影響に対する対策

- ① 正しい座り方の指導:姿勢改善のため、机や椅子の高さを子供に合わせて調整するよう指導する。

### ● 端末の重さに対する対策

- ① 端末の選定と重さ対策:教科書の持ち帰り等について検討が必要。